

本資料は、マニユライフ・ファイナンシャルが、11月5日にカナダにおいて発表した英文プレスリリースの日本語部分訳です。ご参考資料として配布させていただいています。正式な内容のご確認、財務数字の詳細につきましては、マニユライフ・ファイナンシャル社ホームページにてご覧いただけます。(www.manulife.com)



News Release

TSX/NYSE/PSE: MFC SEHK: 945

特に明記されていない限り通貨はカナダドル表示です

速報版

2009年11月5日

マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション、第3四半期業績を発表

- 2009年第3四半期業績は、力強い販売実績、株式市況の好転があったものの、社債利回りの低下および保険数理上の基礎率等の変更に伴い若干の純損失を計上
- 料率の改定、販売報酬の調整および当社に有利な出再条件の確保による利幅増
- 変額年金以外の商品の販売が堅調な伸びを示し、よりバランスの取れた事業構成を実現
- ヘッジの実施、料率改定、商品および資産構成の変更による株式リスク水準の改善
- 厳しい市場環境にもかかわらず堅調な信用管理実績 – 当社保有資産の優れた品質が依然として高い競争力を維持
- 2件の魅力的な事業買収の成立 – AIC社のミューチュアル・ファンド事業およびポトラフ&スミス社の旅行保険事業買収
- 株式市況、金利変動および与信関連環境が引き続き当社バランスシートおよび収益に影響を及ぼす見込み
- 堅牢かつ強固な資本基盤構築への長期的取り組み – 2009年末を目処に進めている米国事業子会社の合併によるメリット享受を期待

トロント – マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション（以下「MFC」という）は、本日、2009年9月30日を期末日とする第3四半期において、前年同期実績である5億1,000万ドルの純利益に対し、1億7,200万ドルの株主純損失を計上したと発表しました。当期における希薄化後1株損益は、前年同期実績である1株利益0.33ドルに対し、0.12ドルの損失となりました。当四半期の業績は株式市場の好転を反映しましたが、社債利回りの低下、保険数理上の基礎率の改定により相殺されました。尚、ザ・マニユファクチャラーズ・ライフ・インシュアランス・カンパニー（以下「MLI」という）は、2009年9月30日現在における「最低継続資本金/剰余金要件 (MCCSR)」比率が、前年同期実績の193%から、229%に上昇したと発表しています。

第2四半期において、当社は、2009年後半および2010年通年における四半期毎の予想正常化純利益が7億5,000万ドルから8億5,000万ドルの間になるであろうとの将来の展望に関する記述をリリースに盛り込んでいます。調整後の当四半期の事業利益¹は約8億300万ドルとなります。

¹ 第2四半期業績報告書において「正常化純利益(normalized earnings)」と呼ばれている項目を指します。詳細については「Normalized Earnings and Adjusted Earnings from Operations – Reconciliation with GAAP Measure」および「Performance and Non-GAAP Measures」の項を参照願います。

ドナルド A. グロイオン社長兼 CEO は次のように述べています。

「当社の業績は基本的に堅調でした。しかし、社債利率の低下および保険数理上の基礎率等の変更に伴い、責任準備金の積み増しをしたことによる影響が出ました。当社では、利幅増、変額年金以外の商品の販売増大、株式リスク・プロフィールのさらなる改善といった様々な施策を実施しており、堅牢かつ強固な資本基盤構築に引き続き取り組んでいます。また、当期中に 2 件の魅力的な事業買収を発表しているように、戦略的成長を促すかつてないほど多岐にわたる事業機会が当社の前に立ち現れると認識しています。当社では、今後とも引き続き、卓越した資産の質、広く認知されたブランド、先進的主導的商品と販売網、優れた投資マネジメント、成長市場での高いシェア等、重要な強みの構築に努めて参ります」

財務業績

マイケル W. ベル SEVP 兼チーフ・ファイナンシャル・オフィサー (CFO) は次のように語っています。

「第 3 四半期における社債利率の継続的下落の結果、当期において数理的責任準備金をさらに積み増す必要が生じました。また、当四半期において変額年金商品に係る契約者行動への対応を含む保険数理上の基礎率等の変更に伴う責任準備金の積み増しも行いました。金利低下および解約率の計算基礎を変更したことに伴い、当社の金利感応度は上昇しました。とはいえ、当社の基本的事業成長力は依然として高く、当社投資ポートフォリオの質の高さは他社を上回る競争力を発揮し続けており、MCCSR 比率も 229% という十分な水準を維持していることから、引き続き、当社の成長と並行して、リスク・プロフィールの改善、資本の柔軟性の強化に向け徹底した取り組みを推進していく所存です。さらに、監督官庁の承認待ちの状況にあります。米国事業子会社グループの組織再編を本年末までに完了する予定であり、この組織再編が実現すれば、資本効率および事業費効率の改善に大きく貢献するものと期待しています」

第 3 四半期において、S&P500 およびトロント証券取引所 (TSX) の平均株価がそれぞれ 15% および 10% の上昇を記録したように、北米各市場において株式市況が好調に推移した結果、12 億ドルの非現金収益を計上しました。この内、10 億ドルは特別勘定商品の保証に係るものであり、残りは、変額ユニバーサル生命商品について想定していた将来の手数料関連の利益、および責任準備金に対応する株式に係る利益です。

当四半期における金利下落および社債スプレッドの縮小により、当社は、12 億ドルの非現金費用を計上しました。金利の変動は、将来純キャッシュフローの運用において、将来利回りの前提を変化させることから、保有契約に係る責任準備金評価に影響を及ぼします。この金利下落は、また、当四半期に引き受けた新契約 (特に米国インシュアランス) において、前提としていた運用利回りにも影響を与えました。

前四半期のリリースで述べました通り、当社では、第 3 四半期において保険数理上の全基礎率等に関する年次見直し作業を完了しました。その結果にもとづき、特別勘定保証商品に関わる契約者行動に係る基礎率等の変更に伴う費用計上分が 4 億 6,900 万ドル (以前公表した 5 億ドル以下という予想値の範囲内に収まっています) を含む 7 億 8,300 万ドルの費用を計上しました。残りの金額は、罹病率および特別勘定商品以外の商品に関連する契約者行動に係る基礎率等の変更から生じた損失に関連するものであり、その一部は、死亡率、事業費および資産運用関連項目に関わる基礎率等の変更から生じた利益により相殺される結果となっています。

当社投資ポートフォリオは、引き続き、市況全体の動きを上回るパフォーマンスを記録しており、減損総額は 1 億 1,100 万ドルとなりました。当四半期においては、3,000 万ドルの与信関連損失、600 万ドルの与信先格付け引き下げ関連損失、コーポレートおよびその他セグメントにおける株式持高および私募株式投資における一時損失以外の損失 (「OTTI」) 等に係る費用等としてそれぞれ 3,200 万ドルおよび 4,300 万ドルを計上しました。

上述の通り、MLIは、2009年9月30日現在のMCCSR(最低継続資本金/剰余金要件)比率が前年同期実績の193%から229%に上昇したと報告しています。また、当社米国子会社グループの組織再編も大きな進展を見せており、本年末には、MLI傘下にある主要米国事業会社を合併する予定です。この合併により、資本構成の効率向上および事業運営の効率化が成果として現れるでしょう。合併後のMLIには、より分散化したリスク・プロファイルおよび、より堅固な資本比率というメリットがもたらされるものと期待しています。合併によりMLIのMCCSR比率は低下することが予想されますが、規制上必要とされる最低水準を超えて、株式市況の下落に備えて当社が確保しているクッション部分については、株式市場に対する感応度も低下することから、ほぼ変わることはないと考えています。

販売および事業成長

ジョンD.デプレIIIチーフ・オペレーティング・オフィサー(COO)は次のように述べています。

「当四半期において、値上げの実施や販売報酬調整および当社にとってより有利な出再条件の確保といった様々な施策により利幅の増大を実現しています。さらに、料率改定、当社商品構成および資産構成の変更ならびに変額年金保有契約に係る38億ドルの追加ヘッジ等により、変額年金に係るリスク水準を改善することができました。アジア事業部門では、中国での業容拡大に加え、日本およびインドネシアにおける保険市場のシェアが大幅に上昇しており、好調な業績を達成しています。カナダでは、団体向け事業および固定利回り運用商品が堅調な推移を示しており、2件の事業買収により、ミューチュアル・ファンドおよび旅行保険市場でのマニユライフの地位をさらに強固なものにすることでしょう。米国では、重要な販売代理店との関係を強化し、いくつかの商品の販売実績が増加しました。さらに、当社運用ファンドが新たに3つのファイブスター・モーニングスター・レーティング²を取得しており、資産運用分野での当社の主導的地位が改めて裏付けられる結果となっています。また、ジョン・ハンコック・ライフスタイル・ファンズでは高い地位を引き続き維持しています」

2009年第3四半期の新契約エンベディッド・バリュー(以下「NBEV」)はインシュアランス部門で当社が事業を展開している全ての地域で順調な伸びを示し、前年同期比で17%増を達成したものの、ウェルズ部門については、変額年金の販売減およびヘッジ費用増とその他の商品構成の変化を反映し前年同期比48%減となりました。

インシュアランス部門の販売は、殆どの事業部門で直近2四半期の実績を連続して上回りました。為替影響を除くと、全地域の合計は前年同期比2%増となり、アジアおよびカナダにおける好調な販売は米国における販売減により一部相殺される結果となりました。

変額年金商品を除いたウェルズ部門の販売も、直近2四半期の実績を連続して上回りました。米国およびカナダにおいては、固定運用利回りを求める顧客が多いことから、固定利回り資産運用商品が引き続き前年同期実績を上回る堅調な販売を見せており、為替影響を除くと全地域の合計は前年同期比4%増となりました。

変額年金商品を除いた当四半期の「保険料等」は、143億ドルとなり、為替変動の影響を除くと、前年同期比2%減となりました。保障性商品の保有契約の増大および固定利回り資産運用商品の販売の伸びがあったものの、それらは、投資顧問事業の新規契約減少により相殺される結果となっています。

² モーニングスターでは、少なくとも3年の運用歴を有するファンドを対象に、各ファンドの月次パフォーマンス(代理店手数料、販売手数料および解約手数料の影響を含む)の変動を示すモーニングスターのリスク調整後リターンにもとづき、下方への変動に重点を置くとともに、安定的なパフォーマンスを高く評価しながら、モーニングスターとしてのレーティングを算定しています。各カテゴリーの上位10%が5スターを取得し、次の22.5%、35%、22.5%そして最後の10%について、4、3、2、1のスター格付けがそれぞれ割り当てられることになっています。一つのファンドに係るモーニングスターの総合レーティングは、当該ファンドの3年、5年および10年(該当する場合)のモーニングスター・レーティング指標に関わるパフォーマンスの加重平均にもとづき算定されています。過去のパフォーマンスは将来の成績を保証するものではありません。総合レーティングでは、販売手数料免除対象のファンドを除き、代理店手数料、販売手数料および解約手数料の影響を加味しています。尚、クラスA株式にかかる販売手数料免除のレーティングは、フロントエンド手数料の対象ではない投資家の方々のみが考慮すべきものですので、この点ご留意願います。

変額年金および特別勘定関連商品の保険料・預り金は 19 億ドルとなり、前年同期比で 21 億ドル減となりました。これは、一部は全般的な経済状況によるものですが、大部分は当社が事業を展開する全ての地域を対象に推進している継続的なリスク管理強化策の実施によるものです。

2009 年 9 月 30 日現在の管理運用資産総額は、純契約者キャッシュフローが 200 億ドル に達したことおよび為替変動が当社に有利に推移していることから、4,370 億ドルとなり、前年同期実績を 13% 上回りました。過去 4 四半期間にわたる運用収益増が約 190 億ドルに達し、管理運用資産増に大きく寄与しています。

カナダ事業部では、戦略的事業機会をフルに活用し、第 2 四半期末以降において、2 件の事業買収案件の成立を発表しました。マニユライフ・ミューチュアル・ファンドでは、AIC 社のカナダにおける小口資産運用ファンド事業の買収を発表しています。これにより、管理運用資産が約 38 億ドル増加した結果、当該事業の総管理運用資産が約 40% 増となり、カナダの小口資産運用ファンド市場における事業規模を拡大し、マニユライフの存在感を高めるという効果を発揮しています。また、アフィニティ（類縁団体）マーケット部門でも、カナダ最大手の旅行保険代理店兼第三者管理機関の一つであるポトラフ&スミス・トラベル・インシュアランス・ブローカーズ・インクの買収を発表しました。この買収により、マニユライフは旅行保険会社として長期的成長を実現するうえで必要となる強靱な事業基盤を備えるカナダ最大手の旅行保険サービス提供企業の地位を更に強固なものとしています。

当社では、当社商品構成のリバランスおよびリスク軽減を目指し、変額年金の商品構成の見直しを継続的に実施するとともに、商品機能および料率の変更に引き続き取り組んでいます。世界各地の株式市場が回復基調にある中、当社では、機会を捉え変額年金保有契約の内さらに 38 億ドル のヘッジを実施しました。米国およびカナダで新たに引き受けた変額年金契約については、実質的に、全て継続的にヘッジを実施しており、今後ともその方針を維持していく考えです。当四半期末までに、保証金額の内ヘッジを実施した金額は 195 億ドルとなり、前期実績である 145 億ドル、2008 年 12 月末実績の 57 億ドルから大幅に増加しています。この結果、総保証金額の内ヘッジまたは出再済み分の割合は 2008 年末の 20% から当四半期末では 30% に増大しています。

事業運営ハイライト

インシュアランス (保障型保険商品セグメント)

- 2009年第3四半期におけるインシュアランス販売は、殆どの事業分野において直近2四半期の実績を連続して上回り、為替変動の影響を除くと、前年同期比 2% 増となりました。この販売増はアジアおよびカナダでの堅調な販売によるものですが、その一部は米国での販売減により相殺される結果となっています。
- 米国では、当四半期において全体として販売が回復し、前期実績を 18% 上回ったものの、前年同期比では 6% 減となりました。死亡保障保険販売および長期介護保険販売ともに直近2四半期の実績を連続して上回る大幅な改善を示したものの、前年同期実績との比較では、それぞれ 4% および 13% 減となっています。景気全般が低迷する中、死亡保障保険販売は、当四半期において2億ドルの大台を突破し、長期介護保険販売も好調であった前年同期実績に比肩する堅調な販売を示しています。第1四半期以降、死亡保障保険部門では定期保険およびユニバーサル型生命保険を対象に料率の値上げを実施する一方、長期介護部門においても、新商品導入と団体向け料率の値上げを行なっています。
- カナダでは、個人生命保険販売が前年同期比 4% 減となったものの、団体給付金部門の販売が前年同期比 12% 増となり、個人生命保険の減少分を相殺したことから、インシュアランス部門全体の販売は前年同期水準を 6% 上回りました。当四半期終了後に、アフィニティ・マーケティング部門が、カナダ最大手の旅行保険代理店兼第三者管理機関の一つであるポトラフ&スミス・トラベル・インシュアランス・ブローカーズ・インクの買収を発表しました。この買収により、マニユライフは、旅行保険会社として長期的成長を実現するうえで必要となる強靱な事業基盤を有するカナダ最大手の旅行保険サービス提供企業の地位を更に強固なものとしています。
- アジア地域では、為替変動の影響を除くと、前年同期実績を 16% 上回り、当四半期において記録的な水準の保険の販売を達成しました。新商品の導入および販売チャネル強化策が引き続き販売増に弾みを付けており、日本での販売は前年同期実績を 7% 上回る一方、香港における販売も 29% 増を記録しました。日本およびインドネシアでは、消費者の質への逃避の傾向を反映し、2009年において、大幅なマーケットシェア拡大を実現しています。中国では、昨年開設した新たな支店における販売および最近における営業諸施策が貢献し、当四半期において前年同期比 18% 増を達成しています。マニユライフは、引き続き、中国での営業拠点の拡大を推進しており、当四半期において河北省天津市での営業免許を取得しています。この結果、営業免許取得数は 38 件 となり、中国で事業を展開する外資系生命保険会社の中で最多の営業拠点を有する企業となっています。

ウェルス・マネジメント (資産運用商品セグメント)

- 変額年金商品を除く2009年第3四半期のウェルス・マネジメント販売は、米国およびカナダにおける固定利回り商品販売の堅調な伸びにより、為替変動の影響を除くと、前年同期比 4% 増となりました。消費者が安定的な利益を得られる投資に向かっていることから、固定利回り商品の販売は前年同期実績を継続的に上回る伸びを示しています。
- 変額年金販売は、前年同期実績の半分を更に割り込む落ち込みとなりました。この落ち込みは、一部は全般的な経済状況によるものですが、大部分は当社が事業を展開する全ての地域を対象に推進している継続的なリスク管理強化策の実施によるものです。
- 米国では、変額年金商品を除くウェルス・マネジメント商品の販売が前期比 21% 増と上昇し、前年同期比でもほぼ横這いの水準を維持しました。変額年金以外のセグメントでは、固定利回り商品の販売が前期比で 16% 増となったのをはじめ、企業年金販売が30% 増そしてミューチュアル・ファンド販売が 18% 増と、それぞれ、前期実績を大幅に上回る二桁の伸びを示しました。前年同期比では、固定利回り商品の販売が前期比で 37% 増、企業年金販売は横ばい、ミューチュアル・ファンド等の販売が

12%減となりました。さらに、当四半期において、ジョン・ハンコックは、エドワード・ジョーンズとの販売代理店契約の締結を発表しました。これは、ジョン・ハンコック長期介護部門および変額年金部門が同社と構築している緊密な提携関係を活用する取り組みのひとつであり、当該契約の下、同社所属フィナンシャル・アドバイザーがジョン・ハンコックの401 (k) 商品を取り扱うことができるようにするなど、更なる関係強化を目指していくことにしています。

ジョン・ハンコック・ライフスタイル・ポートフォリオズは、ミューチュアル・ファンド、変額年金および 401 (k) 商品といった各種ウェルス・マネジメント商品を通じてお客様に提供されていますが、当四半期においても引き続き堅調な利回りを計上しました。ミューチュアル・ファンドおよび401(k)商品の運用対象資産となるライフスタイル・ポートフォリオは、バランスド (Balanced)、アグレッシブ (Aggressive)、グロース (Growth)、モデレート (Moderate) およびコンサーバティブ (Conservative) の各モーニングスターの同系ファンド・グループ内での1-9月累計でのランキングは、それぞれ、百分順位 (パーセンタイル) で、第8位、11位、13位、14位および29位となっています³。ジョン・ハンコックは、2009年9月30日現在、550億ドルを超える管理運用資産を有しており、「ストラテジック・インサイト」のデータによれば、ライフスタイル/ライフサイクル資産配分ソリューション分野において業界第3位の地位を占めています。

- カナダでは、変額年金商品を除くウェルス商品販売が前年同期実績を 5% 上回りました。定額商品および団体退職年金商品の販売が大幅な伸びを示し、マニユライフ・バンクの貸付金額の減少を上回りました。定額商品が前年同期比 57% 増を達成する一方、団体退職金商品販売は、団体年金商品が過去最高記録を更新するなど、前年同期実績比 4 倍増を超える素晴らしい販売業績を実現しています。2009 年 1-9 月の団体退職金商品販売の累計は、確定拠出年金市場の好調な実績を反映し、10 億ドルを突破しています。
- 当四半期において、マニユライフ・ミューチュアル・ファンドは、AIC 社のカナダ小口資産運用ファンド事業の買収を発表しました。この事業買収により、38 億ドルの管理運用資産が加わり、カナダ事業部のミューチュアル・ファンドの事業基盤となる運用資産が約 40%増加することになり、小口資産運用ファンド市場における事業規模の拡大とともに、カナダ事業部の当市場における存在感を高めています。
- アジアにおいては、変額年金商品を除くウェルス商品販売が、主にインドネシアにおける堅調な販売増加に牽引されて、前年同期実績を 59% 上回りました。インドネシアのファンド市場は株式市場の回復を受け、前年同期比 3 倍増を超える好調な伸びを達成しています。

コーポレート

- 当四半期において、当社は、イノベティブ・ティア 1 ノーツを発行し10億ドルの資金調達を行いました。当該債券の利率は、発行日より2019年12月30日までの期間においては、年率7.405%の利率が適用されます。その後の期間については、5年物カナダ国債の利回りプラス5%に相当する利率（5年毎にリセット）が適用されることになっています。また、2014年12月31日以降において、監督機関（OSFI）の承認を得れば、当該債券の全部またはその一部を償還することができることになっています。

³ モーニングスター・パーセンタイル・ランキングでは、あるファンドが獲得したモーニングスターのリスクおよびリターン得点をベストなら1、ワーストなら100として、同じカテゴリー内にある全てのファンドの得点と比較しています。ジョン・ハンコック・ライフスタイル・ポートフォリオのクラスAに関する上記ランキングは、2009年1月1日から同年9月30日までの間を対象に算定されています。ライフスタイル・アグレッシブ・ファンドは、大型株ブレンド・カテゴリーにある2,028ファンド中、208位にランクされ、ライフスタイル・グロース・ファンドは、大型株ブレンド・カテゴリーにある2,028ファンド中、251位、ライフスタイル・バランスド・ファンドは、モデレート・アロケーション・カテゴリーにある1,218ファンド中、97位、ライフスタイル・モデレート・ファンドはコンサーバティブ・アロケーション・カテゴリーにある647ファンド中、91位、また、ライフスタイル・コンサーバティブ・ファンドはコンサーバティブ・アロケーション・カテゴリーにある647ファンド中、189位にそれぞれランクされています。

- また、当社は、2009年11月17日の取引終了時における株主名簿記載の株主を対象に2009年12月21日以降に支払われる当社普通株式1株当たりの四半期配当金を0.13ドルとすることが当社取締役会で承認されたことを受け、本日、別のプレスリリースにてこの旨の発表を行っています。
- 次の2名の素晴らしい取締役が新たに任命されました。
- 2009年8月5日付で、リンダ・バマン氏がマニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーションおよびザ・マニユファクチャラーズ・ライフ・インシュアランス・カンパニーの取締役会メンバーに選任されました。バマン氏は、JP モルガン・チェイス、バンク・ワンといった米国系大手銀行数行で経営幹部として要職を歴任されており、そこで培われたリスク管理面でのノウハウ・経験そして実務に根ざした経営手腕の発揮が期待されています。
- 2009年11月4日付で、ジョン・パーマー氏が、同じくマニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーションおよびザ・マニユファクチャラーズ・ライフ・インシュアランス・カンパニーの取締役会メンバーに選任されました。パーマー氏は、シンガポールおよびオーストラリアの金融機関規制当局において要職を歴任するとともに、カナダ金融機関監督官として7年にわたる経験を有する傑出した人物であり、金融機関に対する各種規制に関する幅広い知見でマニユライフ取締役会に貢献されるものと期待されています。同氏は公認会計士(CA)の資格を有し、直近まで、KPMG LLP(カナダ)のマネージング・パートナー兼副会長の職にありました。

受賞・認定状況

マニユライフ・ファイナンシャルでは、当四半期において多数の団体・機関より高い評価を受け、以下のような様々な賞や認定を受けています:

- カナダでは、インディビジュアル・ウェルス・マネジメント(個人向け資産運用)部門が、ナショナル・クオリティ・インスティテュート(NQI)より優れた品質を達成していることが高く評価され、レベル4の認証および権威ある金賞を受賞しました。NQIでは、プログレッシブ・エクセレンス・プログラムと銘打って、顧客、一般大衆、プロセス・マネジメント、パートナーシップ、社会に対する責任およびオーナー・株主といった様々なカテゴリーにおけるエクセレンスを測定していますが、その中でも最高レベルの品質達成度を示すものです。
- 米国では、ジョン・ハンコック長期介護部門が、「エージェンツ・セールス・ジャーナル」誌主催2009年度長期介護保険会社レポートカードの11部門全てで第1位に選ばれました。対象部門には、商品および各種機能、マーケティングおよび販促資料、商品および販売トレーニングならびにマーケット・セグメントの全てのニーズへの対応度などがあります。
- インドネシアにおいては、マニユライフは、インドネシア初の全国経済紙である「ビジネス・インドネシア・デイリー」紙より「2009年度最優秀生命保険会社」に選出されました。本年度の選考では、「存続性と収益性」をテーマに129の企業が審査対象となりました。世界的な金融危機にもかかわらず、マニユライフ・インドネシアは、堅調な事業成長を実現していることが高く評価され、生命保険部門において最優秀企業という権威ある賞を受賞する栄誉を受けました。今回の受賞は、マニユライフにとって初めての快挙となります。
- MFC グローバル・インベストメント・マネジメント(「GIM」)は、モーニングスターの2009年9月度米国ミューチュアル・ファンド・ランキングにおいて、同社が運用しているジョン・ハンコック・ファンドの内、大型株、グローバル・オパテュニティーズおよび戦略的インカム・ファンドの3つが新たにモーニングスター・レーティングのファイブスターを獲得しました。モーニングスターのファイブスター・レーティングは、最高位のレーティングであり、過去の利回りおよびボラティリティにもとづき、対象ファンド全体の上位10%のファンドのみに与えられるレーティングです。

注記:

マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーションは2009年11月5日午後2時(北米東部時間)に第3四半期決算に関する電話会議を開催します。参加を希望される場合には、カナダおよび海外からお掛けの場合は共に(416) 340-2216に、また北米地域からお掛けの場合は、通話料無料の(866) 898-9626に電話会議開始10分前にお電話いただき、お名前と組織・会社名を電話交換手にお告げください。なお、本会議の内容は、

(416) 695 - 5800 または(800) 408-3053 (パスコード 3274827#) にお電話いただければ、2009年11月5日午後6時(東部時間)から2009年11月19日までの間、録音にてお聴きいただけます。

また、同電話会議は2009年11月5日東部時間午後2時からマニユライフ・ファイナンシャル社ウェブサイトのウェブキャスト www.manulife.com/quarterlyreports でご覧いただけます。同日午後4時(北米東部時間)より、同じURLで同電話会議ウェブキャストの保存版をご覧になれます。

2009年第3四半期の財務諸表ならびに統計情報をまとめたパッケージは、次のマニユライフのウェブ・サイトからでもご入手いただけます: www.manulife.com/quarterlyreports。これら資料はウェブキャスト開始前にダウンロードすることができます。

報道関係者からのお問い合わせ先:

David Paterson
(416) 852-8899
david_paterson@manulife.com

Laurie Lupton
(416) 852-7792

Laurie.Lupton@manulife.com

投資関係者からのお問い合わせ先:

Amir Gorgi
1-800-795-9767
investor_relations@manulife.com

マニユライフ・ファイナンシャルについて

マニユライフ・ファイナンシャルは、カナダを本拠とし、世界 22 ヶ国・地域で数百万のお客様にサービスを提供している金融サービスのリーディング・グループです。カナダおよびアジアでは、マニユライフ・ファイナンシャルとして、また、米国においては、主にジョン・ハンコックとして事業を展開し、当社職員、エージェントおよび販売パートナーの広範囲にわたるネットワークを通じて、お客様に多種多様な保障商品や資産運用サービスを提供しています。マニユライフ・ファイナンシャルおよびその関連子会社の管理運用資産は 2009 年 9 月 30 日現在 4,365 億カナダドル (4,071 億米ドル) となっています。マニユライフ・ファイナンシャル社は、トロント証券取引所 (TSX)、ニューヨーク証券取引所 (NYSE) およびフィリピン証券取引所 (PSE) においては「MFC」の銘柄コードで、また、香港証券取引所 (SEHK) では「945」で取引されています。マニユライフ・ファイナンシャルについての詳細は当社ホームページ (www.manulife.com) をご覧下さい。